

巻頭言 「BSCもどきとなっていないですか」

専修大学教授
伊藤 和 憲

日本では、マネジメント・システムの実務と理論の乖離が激しいために、欧米で開発された手法を実践できないことがあります。そのようななかで、バランスト・スコアカード(Balanced Scorecard)は着実に日本の医療機関に定着した感があります。これは外部環境の変化によって医療機関がマネジメント力をつけざるを得なくなったとことが考えられます。同時に、当研究学会が、BSCの普及の場になったと考えられます。事例発表会や他の医療機関の実践学習など、多様なコミュニケーションがとられたことは、日本でのBSC導入に大きな役割を果たしたといえます。

BSCの導入率は、高橋淑郎会長の論文によれば、2013年に28%にも上っています。目標管理ほどではありませんが、日本の医療機関のマネジメント・システムとしては相当の普及率と言えます。ところがその実態を見てみると、BSCとは名ばかりの、BSCもどきを実践している医療機関も少なくありません。BSCはいろいろなタイプがあつていいとは思いますが、正しいBSCを知らずにまがい物を正しいと誤解しては、本来のBSCの狙いは期待できません。

当たり前ですが、BSCは戦略マップとスコアカードを作ることはありません。では何のためにこれらを作るのでしょうか。多くの医療機関では、BSCを目標管理のように用い、設定した目標値を達成するというスコアカードに重きを置いているケースがあります。BSCの本来の使い方は違います。戦略マップは戦略という仮説を可視化したものであり、この仮説検証のためにスコアカードを用いるのです。もちろん統計的な検証はできないことが多いので、戦略が正しいかどうかのコミュニケーションをとることに大きな意味があります。

コミュニケーションをとるにあたっては、なぜ目標値が達成できないのかを話し合います。実施項目がスケジュール通り進んでいないのであれば、それを進めるにはどうすべきかを話し合います。実施項目が違っていたのであれば効果的な実施項目について話し合います。目標値が高過ぎたのであれば、目標値の修正を、戦略目標が違っていたのであれば、戦略マップを修正します。このような話し合いの場が極めて効果的です。このようにしてビジョンを実現するのがBSCの本来の狙いです。皆さんの組織ではBSCをどのように利用していますか。

「The 21th Annual BSC Workshop in Tokyo」

～正しいBSCの理解と戦略策定ステップ～

■ 2015年12月5日(土)(13:00開始予定)～12月6日(日)(15:30終了予定)

※道状状況により変更となる場合がありますのでお帰りの時間は少し余裕をもってご計画ください。

(※宿泊は各自でご手配をお願いします。)

- 会場 日本大学商学部本館3階31会議室
〒157-0073 東京都世田谷区砧5-2-1
- 定員 5組 <原則として1施設より3名～4名(例:医師・看護師
・経営企画室など)のご参加をお願いしております。>
- 参加費 日本医療BSC研究会会員 1名あたり20,000円(税込み)
日本医療BSC研究会非会員 1名あたり50,000円(税込み)
(※注:12月6日の昼食、テキスト代込み)
- 当日持参頂くもの
貴院のミッション・ビジョン・各種経営データなど
(※お申し込みの方には後日詳細をご連絡致します。)
- 参加申し込み締切り
2015年11月27日(金)
※定員になり次第、締切らせて頂きます。
- 講師 高橋淑郎(会長)
中野種樹(企画研修委員会 担当理事)
深澤優子(企画研修委員会 委員長)
他、企画研修委員会委員



お申し込み・お問い合わせ先

- 申込みについて
 - 1 下記「参加申込書」に必要事項をご記入の上、
entry@hbosc.jpまでお送りください。
 - 2 お申込みいただきました方、代表者へは、
参加受付の確認のメールを致します。
参加料は、ワークショップ開催日の1週間前までにお振
込下さい。なお、領収書の発行は「振込受領書」を持っ
て領収書に代えさせていただきますので、あらかじめご
了承ください。参加費振り込み後のキャンセルについて
はお受けいたしかねます。代理の方がご出席下さいま
すようお願い申し上げます。
 - 3 定員になり次第締め切らせて頂きますが、キャンセル
待ちをお受けします。

● 申込料金振込先口座 三菱東京UFJ銀行 築地支店 (店番 025) 普通 1095573
日本医療パラリスト・スコアカード研究学会 会長 高橋 淑郎

● 問合せ先 03-5389-3027(平日:9:00～12:00 13:00～17:00)

● 送付先アドレス entry@hbosc.jp

※学会事務局宛電子メール(「entry@hbosc.jp」)にて問い合わせの場合、ご返答まで若干のお時間を頂く場合がございます。申し訳ありませんが、ご了承下さい。

● Webサイト <http://hbosc.jp/index.html>



必要事項をご記入の上、entry@hbosc.jpのメールアドレスに添付し送信してください。

フリガナ
病院・会社名 _____
病院・会社所在地 〒 _____ 住所 _____
TEL: _____ FAX: _____ e-mail: _____

フリガナ

(1)受講者名 _____	部署名: _____	役職名: _____	e-mail: _____
区分(個人正会員(会員番号) _____)	・ 賛助会員 ・ 非会員)		
(2)受講者名 _____	部署名: _____	役職名: _____	e-mail: _____
区分(個人正会員(会員番号) _____)	・ 賛助会員 ・ 非会員)		
(3)受講者名 _____	部署名: _____	役職名: _____	e-mail: _____
区分(個人正会員(会員番号) _____)	・ 賛助会員 ・ 非会員)		
(4)受講者名 _____	部署名: _____	役職名: _____	e-mail: _____
区分(個人正会員(会員番号) _____)	・ 賛助会員 ・ 非会員)		

「The 21th Annual BSC Workshop in Tokyo」

導入ワークショップ タイムスケジュール

※進捗状況により延長となる場合がありますのでお帰りの時間は少し余裕をもってご計画ください。

【12月5日（土） タイムスケジュール】

時間	時間	内容	形態	詳細
12:45～13:00	-	受付	-	
13:00～13:10	10	挨拶	全体セッション	グループ紹介、スケジュールの説明・会場説明、講師紹介
13:10～13:20	10	BSC全体説明	全体セッション	BSCの状況説明、ゴール確認
13:20～15:30	130	Step 1	全体セッション	①SWOT分析について
			グループセッション	SWOT分析による現状把握
15:30～17:00	90	Step 2	全体セッション	②クロス分析・二次元展開法について
			グループセッション	クロス分析・二次元展開法を使った課題抽出
17:00～19:00頃	120	Step 3	全体セッション	③戦略マップについて
			グループセッション	戦略マップの作成
19:00頃～	10	本日のふりかえり	全体セッション	本日のまとめと明日の予定説明

※休憩はグループで適宜お取り下さい

【12月6日（日） タイムスケジュール】

時間	時間	内容	形態	詳細
9:30～9:40	10	前日の確認	全体セッション	昨日のプロセスの確認
9:40～13:40	240	Step 4	全体セッション	④スコアカードについて
			グループセッション	スコアカードの作成
13:40～15:00	80	発表	全体セッション	発表～戦略マップとスコアカード～※各グループによる発表
15:00～15:30	30	まとめ・ふりかえり	全体セッション	2日間のまとめ

※昼食・休憩はグループで適宜お取り下さい

※進捗状況により延長となる場合がありますのでお帰りの時間は少し余裕をもってご計画ください。

海外関連学会との交流 – 台湾HBSC学会のご紹介（上）

元日本大学商学部准教授
青木 武典

ここ数年来、本学会との交流が急速に深まってきた台湾の医療バランスト・スコアカード学会との交流の発端、台湾における医療 BSC の普及状況、台湾 HBSC 学会の活動の一端をご紹介させていただきます。

そもそものご縁の発端は

2010年3月中旬に、当時、本学会の高橋会長がチーフとなって、私たちが在職している日本大学の学術助成による共同研究を行なっていましたが、その成果発表と情報共有のためのディスカッションの会（ラウンドテーブル）を東京（3月12日）と京都（3月13日）で開催しました。研究のテーマが「医療におけるバランスト・スコアカードを有効に利用するために～BSCの利用意図・成果とその評価方法を国際比較し、個別病院から医療政策でのBSCの可能性までを考える～」というものだったので、私たちの研究成果報告だけでなく、カナダと台湾から、BSCを病院の戦略的経営に用いて成果を上げているトップマネジメントの方を各1名、BSCが医療政策の立案・実施に有効な道具として利用できるかどうかを研究・試行している方を各1名、計4人の方をお招きして、ご自身の経験・成果をお話ししていただくとともに、討論に加わっていただきました。

このとき講演をいただいた方のお一人が、当時、台湾台中市の豊原病院の院長として豊原病院にBSCを導入して、業績のV字回復を成し遂げた陳進堂先生（Dr. Jin-Tang Chen）でした。陳先生の講演の後の質疑応答の中で、「業績推移のグラフがV字になっているのはBSC導入の結果とみなしてよいのか」という質問に「まさしくそのとおりだ」と力強く明快にお答えになったのを今でも鮮明に覚えています。ちなみに他の3名の方は、カナダ・オンタリオ州の保健省副大臣補の Dr. Adalsteinn Brown, オンタリオ州トロントの Sunnybrook Health Sciences Centre 院長の Dr. Barry A. McLellan, 国立台湾大学公共衛生学院の楊銘欽副教授（Dr. Ming-Chin Yang）で、陳先生も含めた4人の方のこの時の講演をふまえた論文はすべて、本学会の論文誌『バランスト・スコアカード研究』第8巻第2号に掲載されていますので、興味のある方はぜひご参照ください。

高橋会長も私も、陳先生とお会いするのはこの時が初めてでしたが（前年末に、高橋先生が香港経由1泊3日の強行軍で台北に出張し、台湾大学の楊先生と共同研究の打合せをしたときに、翌年の3月にラウンドテーブルを開催するのでどなたかBSCで成果を挙げている方をご紹介いただけないかと依頼をして、楊先生が陳先生に声を掛けていただいたという経緯のようですので）、その当時は陳先生自らが台湾で学会を立ち上げることなど想像もしていませんでした。ついでにと言っては語弊がありますが、このラウンドテーブルには当時も今も陳先生の秘書をしている陳佳琪女史（Ms Chia-Chi Chen）も来ていたのですが、当日は我々日本側スタッフもてんやわんやでろくに挨拶もせず、勝手に東京見物・京都見物でもしててください、で大変失礼をしてしまいました。

台湾医療 BSC 学会の設立と発展

このラウンドテーブルが終わって数ヶ月後、高橋会長から「台湾の陳先生から『台湾でも医療 BSC 学会を立ち上げた。ついでに年末に設立総会を兼ねた国際シンポジウムを開催するので日本からも参加しないか』という連絡が来たよ。」というお話を伺いました。高橋先生ご自身はラウンドテーブルの時に陳先生から「来年、台湾医療 B S C 学会をつくる予定で準備している」という話を聞いておられたようですが、その高橋先生はじめ我々一同、その素早さに驚くとともに、「シリコンアイランド」とも呼ばれる台湾産業に象徴される、元気な台湾の一端を見る思いがしました。(ラウンドテーブルの時には留学中だった日本大学商学部と同僚、劉慕和先生も留学を終えて帰国されていたので、以降、台湾との連絡・調整はすべて劉先生のお役目ということになりました。)

早速、高橋会長が本学会の主だったメンバーに声を掛けて「台湾医療 BSC 交流団」を編成することになり、その結果、台湾医療 BSC 学会設立総会に立ち合う栄誉に浴する参加メンバーは、下の表のように「一大デレゲーション」となりました。

第1回「台湾医療BSC交流団」のメンバー (所属等は参加当時。以下同様)

1	高橋 淑郎	日本大学商学部教授 (本学会会長)
2	前田 純典	(医)医真会八尾総合病院専務理事 (本学会理事)
3	仲田 清剛	(医)敬愛会ちばなクリニック院長 (本学会理事)
4	佐藤 和弘	(医)敬愛会本部経営企画部部長 (本学会賛助会員)
5	安里 洋美	(医)敬愛会本部課長 (本学会賛助会員)
6	中野 種樹	(財)長岡記念財団長岡ヘルスケアセンター理事長 (本学会理事)
7	小俣 純一	JA相模原協同病院事務部企画情報課長 (本学会評議員)
8	小出 大介	東京大学大学院医学系研究科特任准教授 (本学会評議員)
9	杜 蕙珊	神戸国際医療交流財団
10	青木 武典	日本大学商学部准教授 (本学会評議員)
11	劉 慕和	日本大学商学部准教授 (本学会員)
12	松浦 俊	日本大学大学院商学研究科前期課程 (本学会員)

2010年12月4日と12月6日に、間に日曜日の移動日をはさんで、4日は台北の台北市立連合病院(繁体字を使っている台湾では臺北市立聯合醫院となります)で、6日は早朝の台北から台中まで2007年1月に開通したばかりの台湾新幹線(臺灣高速鐵路:略して高鉄)に乗って40分、高鉄の台中駅からは病院お出迎いのバスで、彰化市の彰化基督教醫院(彰化キリスト教病院)に向かいました。惜しくも2011年11月に急逝された医真会八尾総合病院の前田先生が高鉄の新幹線車両について蘊蓄を傾けられ、その「鉄ちゃん」ぶりを発揮されていたのが今でも思い出されます。



THBSC 設立総会の会場－臺北市立聯合醫院の正面 (2010-12-04)

前田先生は本学会創設時からの主要なメンバーで、今回の交流団では副団長として大活躍していただきました。特に、前田先生が大阪歯科大学で研究者・教員時代に一緒に研究した現台湾歯科医師会会長の、台北での交流会は参加者全員の心に深く残るものとなりました。前田先生は残念ながら、翌年（2011年）に沖縄で開催された学術総会の時に倒れられ、その後お亡くなりになりました。改めて先生のご冥福をお祈り申し上げます。

12月4日は台北、12月6日は彰化と、場所と講演者は変わりますが、プログラムの構成形式はどちらもほぼ同じで、250人から300人程度収容できる大講堂で招待講演者による講演がシンポジウム形式で行われます。すなわち、午前に1セッション、午後は1セッションか2セッションに分け、各セッションを3人程度の演者でそれぞれ講演を行なった後、そのセッションの演者と司会進行役が全員壇上になって、パネルディスカッション形式で質疑応答と議論を行うという形式で進めていきます。本学会でいう一般論題の口頭発表会場は設けず、一般論題はすべてポスターセッションで行われます。このようなプログラム構成は、今回の国際シンポジウムに限らず、その後ほぼ毎年台湾 HBSC 学会に参加させていただいていますが、その後も同じ形式が引き継がれています。

台湾健康産業BSC管理協会国際シンポジウム（I）（2010-12-04）のプログラム

時 間	議 題	講 師
8:30~9:00	受 付	
9:00~9:10	挨拶 ・台湾健康産業BSC管理協会	チェンジンタン 陳 進堂 理事長
講 演		
9:10~10:10	日本医療バランスト・スコアカード研究 学会の生成と発展	日本大学教授, 日本医療BSC研究学会会長 高橋 淑郎
10:10~11:00	病院における戦略管理を実行する価値	台湾健康産業BSC管理協会 理事長 陳 進堂
11:00~11:10	休 憩	
11:10~12:00	新制度のもとでの病院評価とBSC	慈濟慈善基金会医療志業 チャン ウェンチェン 副執行長 張 文成
12:00~12:20	質疑応答	高橋淑郎教授, 陳進堂理事長, 張文成副執行長
12:20~13:30	昼 食	
B S C 事 例 研 究		
13:30~14:20	BSCの実務責任者の経験： BSCをいかに作り、運用していくか	相模原協同病院企画課長 小俣 純一
14:20~14:50	台安医院のBSC導入事例	台安医院
14:50~15:10	休 憩	
15:10~15:40	為恭医院のBSC	為恭医院
15:40~16:10	医療科におけるBSCの適用 ～豊原医院産婦人科の事例～	豊原医院産婦人科主任 ファン ユエンテー 黄 元徳
16:10~16:30	質疑応答	陳進堂理事長, 小俣純一課長, 台安医院, 彰化キリスト教医院, 黄元徳主任
16:30	終 了	

台湾健康産業BSC管理協会国際シンポジウム（II）（2010-12-06）のプログラム

時 間	議 題	講 師
8:00~8:30	受 付	
8:30~8:50	挨拶	
	・彰化キリスト教医院	院長 クオ ソレン 郭 守仁
	・台湾健康産業BSC管理協会	理事長 チェンジンタン 陳 進堂
	・員生医院	院長 チェンソウトン 陳 守棟
講 演		
8:50~9:40	BSC実施のプロセスおよび影響 ～ある台湾の医院を分析対象に	国立政治大学講座教授 ウー アンニー 吳 安妮
9:40~10:30	病院における戦略管理を実行する価値	台湾健康産業BSC管理協会 理事長 陳 進堂
10:30~10:40	休 憩	
10:40~11:40	日本医療バランスト・スコアカード研究 学会の生成と発展	日本大学教授, 日本医療BSC研究学会会長 高橋 淑郎
11:40~12:20	台湾の医療系列におけるBSCの展開 ～彰化キリスト教系列医院の事例	彰化キリスト教医院 副院長 チェンショウズウ 陳 秀珠
12:20~12:30	質疑応答	吳安妮教授, 陳進堂理事長, 高橋淑郎教授, 陳秀珠副院長
12:30~13:30	昼 食	
B S C 事 例 研 究		
13:30~14:10	ちばなクリニックのBSC経営	敬愛会ちばなクリニック 院長 仲田 清剛
14:10~14:40	医療科におけるBSCの適用 ～彰化キリスト教医院の事例～	彰化キリスト教医院
14:40-15:00	休 憩	
15:00~15:30	医療事務科におけるBSCの適用 ～為恭医院検査科の事例～	為恭医院為検査科主任 チェンジェンズー 陳 建志
15:30~16:00	BSCの運用がもたらすDRGの実行	彰化キリスト教医院
16:00~16:20	質疑応答	陳進堂理事長, 仲田清剛院長, 彰化キリスト教医院, 陳建志主任, 陳喜文主任
16:20	終 了	

今回は設立総会を兼ねるということで、移動日を挟んで2カ所で行うという特殊な形態になったようですが、午前のセッションでは理事長（学会長）の陳進堂会長と、高橋会長が2回とも同じ論題で講演を行いました。高橋会長は「日本医療バランスト・スコアカード研究学会の生成と発展」という論題で、日本における学会の設立・運営に関する先行事例という側面を踏まえながら、日本の病院組織・医療行政の特殊性と問題点、また日本とカナダとの国際比較データから見たバランスト・スコアカードの利用方法の違い等について講演されました。

午後のセッションでは、4日のセッションで相模原協同病院の小俣 純一企画課長が「BSCの実務責任者の経験：BSCをいかに作り、運用していくか」という論題で、BSCの導入によって相模原協同病院の業績がどのように回復したのかを具体的に紹介し、6日のセッションでは敬愛会ちばなクリニックの仲田清剛院長が「ちばなクリニックのBSC経営」という論題で、BSCの導入に当たってトップマネジメントが果たすべきリーダーシップの重要性と同時に、支援行動の重要性を強調されました。



ポスターセッションの様子 (2010-12-06)

「台湾医療 BSC 交流団」の第1陣 (の一部)
2010-12-04 朝 臺北市立聯合醫院の玄関前にて
(12月6日の集合写真は THBSC の Web サイトをご覧ください)

台湾医療 BSC 学会の正式名称は「社團法人台灣健康產業平衡計分卡管理協會」(英語名称：Taiwan Health Industry Balanced Scorecard Association) といい、略号は THBSC を使うということです。「カ」は日本の漢字にはない文字ですが、「カード」の音を当てたものだそうです。そういわれると台湾でも繁華街で頻りに目にする「カラ OK」(カラオケ) が頭に浮かび、何となく納得した気になります。私は当初、「峠」の「ツクリ」の部分と同じ文字だとばかり思っていたのですが、同僚の劉先生から「峠のツクリは上と下とが離れているでしょ」と指摘され、自宅に帰って久しぶりに漢和辞典を開いて調べてみたら、「峠」は日本だけで使われる「国字」とのことでした(以上、脱線余談です)。

THBSC のホームページ・アドレスは <http://www.hbsc.org.tw/> ですが、お時間のある方は、このページにアクセスしてみてください。THBSC のウェブサイトのトップページ上段の集合写真のど真ん中に写っているのは、なんと本学の高橋会長です(12月6日の集合写真)。その向かって左隣りが THBSC の陳進堂会長、その左隣りがちばなクリニックの仲田院長です。バナーが勝手にスクロールして次に出てくる集合写真の後列向かって右から二人目が長岡記念財団の中野理事長、その左隣りが私、さらに左隣りが日大商学部の劉先生です(こちらは2013年国際シンポジウムの時の集合写真)。同じ写真の真ん中、陳進堂会長の左後ろの女性が陳佳琪秘書長(事務局長)です(陳会長と同姓ですが、親類縁者ではないとのことです)。

このようにして発足した台湾 HBSC 学会 (THBSC) は、以降順調に発展し、2015年7月20日現在の会員数は、病院会員 40 病院、個人会員 125 名とのことでした。2010年12月の第1回国際シンポジウム(実質的な設立総会)に参加して以来、本学会からもほぼ毎年、THBSC が主催する国際シンポジウムに参加しています。本学会と THBSC との人的交流の状況を下の表に掲げます。

本学会と台湾HBSC学会との交流状況

日程	会議	開催場所	参加人数
2010年			
12月4日	THBSC国際シンポジウム	聯合病院（台湾台北市）	日本から12名
12月6日	THBSC国際シンポジウム	彰化キリスト教病院（台湾彰化市）	
2011年			
5月29日	THBSCワークショップ	為恭病院（台湾頭分市）	日本から5名
10月1日	JHBSC第9回学術総会	沖縄コンベンションセンター（沖縄市）	台湾から19名
2013年			
6月29,30日	THBSC国際シンポジウム	大千病院（台湾苗栗市）	日本から11名
11月9日	JHBSC第11回学術総会	松山赤十字病院（松山市）	台湾から13名
2014年			
5月24日	THBSC国際シンポジウム	台中栄民総病院（台湾台中市）	日本から9名
2015年			
2月7, 8日	JHBSCワークショップ	全国町村会館（東京都）	台湾から6名
6月27日	THBSC国際シンポジウム	馬偕病院（台湾台北市）	日本から9名

第1回国際シンポジウムの翌年、2011年5月29日には、当時THBSCの陳進堂会長が院長をされていた為恭記念病院でBSC導入ワークショップが開催され、本学会の高橋会長と第1回国際シンポジウムにも参加された敬愛会ちばなクリニックの仲田清剛院長が講師として、午前のセッションでは仲田先生が「医療BSCの導入、リーダーの役割」と題して、午後のセッションでは高橋会長が「持続可能な医療BSC」と題して、それぞれ2時間にわたる講演と、その後のディスカッションを先導されました。このワークショップの最後に、仲田先生が「この10月に沖縄で日本医療BSC学会の学術総会が開催されるので、ぜひご参加ください。」と本学会の学術総会への参加を呼びかけられたことで、2011年10月1日には、陳進堂会長、陳佳琪事務局長をはじめ、為恭記念病院、彰化キリスト教病院、衛生署基隆病院等、9病院から総計19人に及ぶ大デレゲーションで本学会の第9回学術総会に参加していただきました。

その後、2013年6月末に大千総合病院で開催されたTHBSC国際シンポジウムでは、日本側からは11名が参加しました。高橋会長が「医療におけるBSCの効果－日本の病院の場合」と題する講演を、香徳会関中央病院の齊藤雅也院長が「BSC/TQMによる病院運営－関中央病院の場合」と題する講演をされるとともに、このシンポジウムの時から、招待講演だけではなく一般演題のポスターセッションにも参加をするようになりました。またこの時、一緒に参加いただいた松山赤十字病院の渡部禎純事務部長が「11月には台北の松山（ソンシャン）空港から日本の松山市にお越しください。」と11月9日に開催される本学会の学術総会への参加を呼びかけ、第11回学術総会へは13名の参加をいただきました。

翌2014年5月に台中栄民総病院で開催されたTHBSC国際シンポジウムには、日本側からは9名が参加し、高橋会長が「日本・台湾・カナダの病院経営スタイルの比較」と題する講演を、松山赤十字病院の淵上忠彦名誉院長が「ピンチをチャンスに変える病院経営～BSCの導入効果～」と題して、BSCの導入による松山赤十字病院の業績回復の経緯と成功要因について講演をされました。また今回はポスターセッションにも2件の参加をみました。

2011年以降のTHBSC国際シンポジウム等への参加者

2011年5月29日 BSC導入ワークショップへの参加者		
1	高橋 淑郎	日本大学商学部教授 (本学会会長)
2	仲田 清剛	(医)敬愛会ちばなクリニック院長(本学会理事)
3	佐藤 和弘	(医)敬愛会本部経営企画部部長 (本学会賛助会員)
4	青木 武典	日本大学商学部准教授 (本学会評議員)
5	劉 慕和	日本大学商学部准教授 (本学会員)
2013年6月29日 THBSC国際シンポジウムへの参加者		
1	高橋 淑郎	日本大学商学部教授 (本学会会長)
2	齊藤 雅也	(医)香徳会関中央病院副理事長兼院長 (本学会評議員)
3	山中 ひろみ	(医)香徳会関中央病院副院長兼看護部長 (本学会賛助会員)
4	西部 則孝	(医)香徳会関中央病院総務課課長 (本学会賛助会員)
5	安江 三枝子	(医)蘇西厚生会松波総合病院看護本部長 (本学会賛助会員)
6	山田 敬子	(医)蘇西厚生会松波総合病院人間ドック看護師長 (本学会賛助会員)
7	松本 利恵	(医)蘇西厚生会松波総合病院薬剤部副部長 (本学会賛助会員)
8	中野 種樹	(財)長岡記念財団理事長 (本学会理事)
9	渡部 禎純	松山赤十字病院事務部長 (本学会評議員)
10	青木 武典	日本大学商学部准教授 (本学会評議員)
11	劉 慕和	日本大学商学部准教授 (本学会評議員)
2014年5月24日 THBSC国際シンポジウムへの参加者		
1	高橋 淑郎	日本大学商学部教授 (本学会会長)
2	淵上 忠彦	松山赤十字病院名誉院長 (本学会理事)
3	梅原 真仁	松山赤十字病院経営企画管理課企画係長 (本学会賛助会員)
4	小出 大介	東京大学大学院医学系研究科特任准教授 (本学会評議員)
5	齊藤 雅也	(医)香徳会関中央病院副理事長兼院長 (本学会評議員)
6	吉村 成雅	(医)香徳会関中央病院放射線科科長 (本学会賛助会員)
7	青木 武典	日本大学商学部准教授 (本学会評議員)
8	劉 慕和	日本大学商学部准教授 (本学会評議員)
9	北村 世都	日本大学文理学部心理学科助教 (本学会員)
2015年6月27日 THBSC国際シンポジウムへの参加者		
1	高橋 淑郎	日本大学商学部教授 (本学会会長)
2	高橋 昌里	日本大学医学部教授 (本学会理事)
3	深澤 優子	R&D Nursingヘルスケア・マネジメント研究所代表 (本学会事務局長・評議員)
4	齊藤 雅也	(医)香徳会関中央病院副理事長兼院長 (本学会評議員)
5	上村 明廣	有限監査法人トーマツ マネジャー (本学会評議員)
6	渡辺 典之	有限監査法人トーマツ パートナー
7	松本 利恵	(医)蘇西厚生会松波総合病院薬剤部副部長 (本学会賛助会員)
8	劉 慕和	日本大学商学部准教授 (本学会評議員)
9	青木 武典	日本大学商学部前准教授 (本学会評議員)

THBSC国際シンポジウム・ポスターセッションへの参加者

氏名	所属	演題
2013年6月29日 THBSC国際シンポジウムへのポスターセッション参加者		
山中 ひろみ	(医)香徳会関中央病院 副院長兼看護部長	関中央病院グループにおけるBSCの浸透と有用性について －職員への意識調査結果からの検討－
松本 利恵	(医)蘇西厚生会松波総合病院 薬剤部副部長	Management of Department of Pharmacy by BSC
青木 武典	日本大学商学部 准教授	A Comparative Study on Management Style and Effects of BSC among Japan, Taiwan and Canadian Healthcare Organizations
2014年5月24日 THBSC国際シンポジウムへのポスターセッション参加者		
劉 慕和	日本大学商学部 准教授	医療BSC導入状況の国際比較：日本・カナダ・台湾の分析結果
北村 世都	日本大学文理学部 助教	Healthcare BSC observed from a psychological viewpoint; Learning and growth perspective based on Self-Determination Theory
2015年6月27日 THBSC国際シンポジウムへのポスターセッション参加者		
松本 利恵	(医)蘇西厚生会松波総合病院 薬剤部副部長	Questionnaire survey about the introduction of department BSC

本年（2015年）は、まず台湾側から2月7日～8日に開催された本学会のBSC導入ワークショップへの参加がありました。学術総会以外の本学会の行事にTHBSCのメンバーが参加されるのは、これが初めてということになります。これに対して日本側からは、6月27日に台北市の馬偕紀年病院で開催されたTHBSC国際シンポジウムに9名が参加しました。今回は高橋会長による「Trends in HBSC in Japan and Worldwide」と題する講演と、日本大学医学部小児科学主任教授の高橋昌里先生による「Application of hospital balanced scorecard for the management of an university hospital -- Consideration through an experience of the management reform of Surugadai Nihon University Hospital」と題する講演の他、蘇西厚生会松波総合病院の松本利恵薬剤部副部長がポスターセッションに参加されました。松本先生のポスターセッションへの参加は、2013年に続けて2回目になります。

と、ここまで書いてきたところで、思わず知らず膨大な分量になってしまったことと、本学会の広報委員会をお手伝いさせていただいている立場からは「次号のニューズレターの発行時期がとっくの昔に過ぎているぞ」という高橋会長の声が頻々と聞こえてきますので、今回はこのへんで一度筆を置かせていただき、本年6月に参加したTHBSC国際シンポジウムへの参加記と、台湾における医療BSCの普及状況、特質等については「次号に続く」にさせていただきたいと思います。

尚、本記事を作成するにあたり、この3月まで日本大学商学部で同僚であった劉慕和先生には、THBSC国際シンポジウムの開催一覧、参加者リストの作成等、一方ならぬご足労をかけさせてしまい、大変お世話になりました。紙面を借りてお礼を申し上げます。